

# **I Rいしかわ鉄道利活用促進アクションプラン**

**平成26年4月**

**I Rいしかわ鉄道利用促進協議会**

## 目 次

1	アクションプラン策定の目的	1
2	取組みの基本的な方針	1
3	I Rいしかわ鉄道の現況と需要予測	2
4	利活用促進策の検討	3
5	開業前から取り組む施策	9
6	開業時から順次取り組む施策	12
7	アクションプランの推進に向けて	15

## 1 アクションプラン策定の目的

平成26年度末の北陸新幹線金沢開業と同時にJR西日本から経営分離される本県並行在来線（金沢・倶利伽羅間）が将来にわたり、住民生活に欠くことのできない重要な交通手段として存続していくためには、経営の効率化と併せ、利用者の増加を図る必要があります。

このため、IRいしかわ鉄道の利便性を向上させるための方策について、IRいしかわ鉄道と県、市町、交通事業者及び経済団体等が連携して取り組んでいくための、当面の取組み指針として「IRいしかわ鉄道利活用促進アクションプラン」を策定することとしました。

本プランにおける施策は当面の取組みであり、開業後の利用動向や施策の実施状況等を踏まえつつ、今後、施策の拡充について検討していきます。

## 2 取組みの基本的な方針

本協議会では、「啓発・広報の推進」と「アクションプランの展開」の2本柱で利活用を促進していきます。

啓発・広報活動は、協議会を構成する県、市町、団体等及びIRが、各々の立場で実施するほか、各々が管理する媒体等で一斉に情報を発信するなど、出来る限り連携を図るとともに、IRいしかわ鉄道は、協議会団体に対して、幅広く情報を提供していくこととします。

(取組みイメージ)



### 【啓発・広報における連携】

協議会の活動やIRいしかわ鉄道のサービス内容等について、以下のような手法により、連携して啓発・広報を実施することとします。

- ・ 県・市町の広報冊子やHP、テレビ・ラジオ等々の広報媒体の活用
- ・ 団体の会報等を通じた傘下団体への周知
- ・ 団体が開催する会議、講演会等における説明の場の提供
- ・ 団体の主催行事への鉄道を利用した来場の呼びかけ

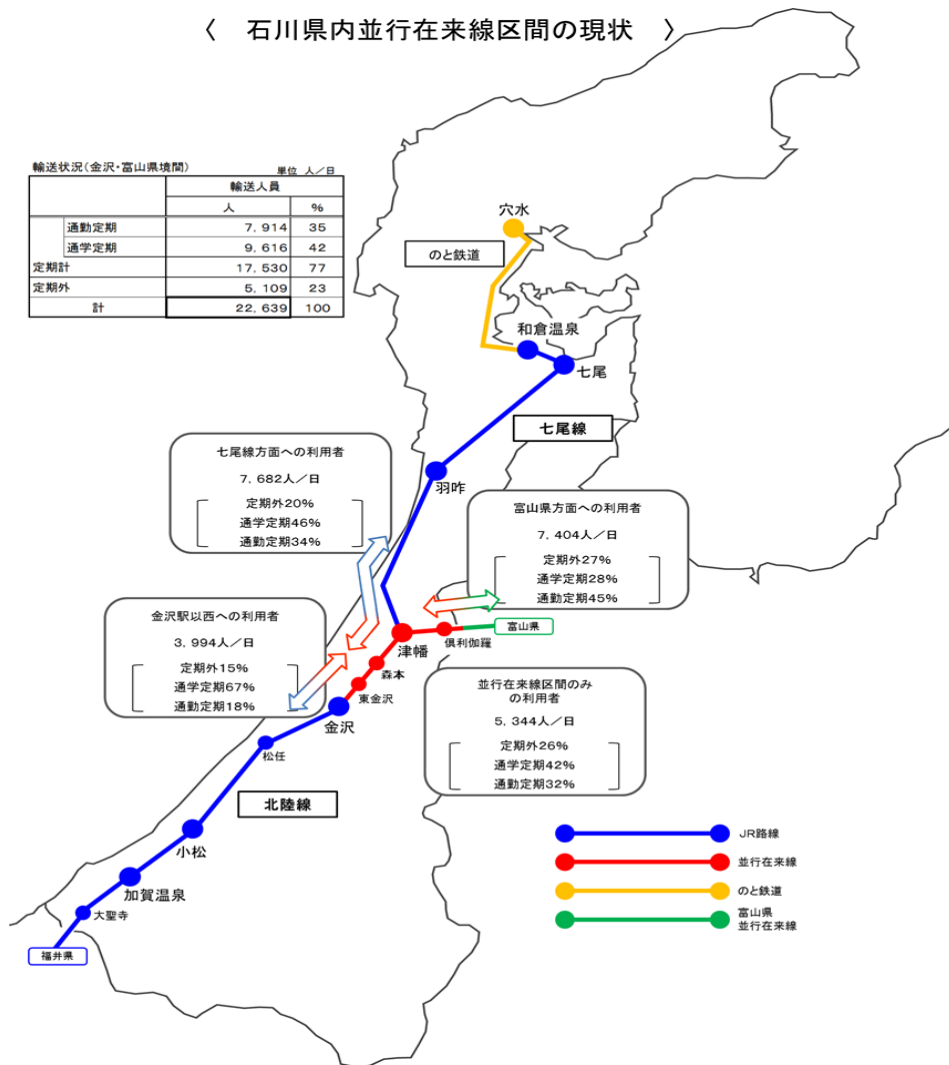
### 3 I Rいしかわ鉄道の現況と需要予測

I Rいしかわ鉄道の営業区間は、金沢駅・倶利伽羅駅間の17.8kmであり、1日あたり、富山方面に57本、七尾方面に52本の普通列車が運行されています。

平成24年度の旅客流動調査によれば、この区間の利用者は約2万3千人で、のうち約8割がJR七尾線や金沢駅以西及び富山県境をまたいでの利用であり、利用者の内訳は、定期利用者が7割強と多数を占めています。

駅勢圏の人口予測をもとにした輸送需要予測では、平成26年度から平成35年度までの10年間で、約21,500人から約19,300人に減少すると見込まれています。

〈 石川県内並行在来線区間の現状 〉



〈並行在来線区間関連利用者〉

単位:人/日、%

区分	H26	H30	H35	H30/H26	H35/H30	H35/H26
通勤定期	7,444	7,256	7,048	97%	97%	95%
通学定期	9,490	8,805	7,871	93%	89%	83%
定期計	16,934	16,061	14,919	95%	93%	88%
定期外	4,614	4,539	4,405	98%	97%	95%
計	21,548	20,600	19,324	96%	94%	90%

## 4 利活用促進策の検討

利活用促進策の検討にあたっては、施策の実効性や効果を確保するため、全国の中小民鉄における事例調査を実施するとともに、県民等の実際の利用者からのニーズを踏まえたものとするためアイデア公募を実施したところです。

これらを踏まえ、4つのテーマを設定し、テーマ毎の施策の検討に係る基本的な考え方を整理しました。

### (1) 全国事例調査

#### 【調査概要】

全国の中小民鉄91社の利活用促進事例を整理するとともに、先行の並行在来線事業者等についての詳細調査（現地ヒアリング）を実施し、地域鉄道における取り組みの実態を調査しました。

#### 【調査結果】

主に他の交通事業者や地域における関係施設または事業者、地域住民、自治体と連携して実施しているソフト面の施策では、「企画切符」が最も多く、次いで「駅でのイベント開催」、「イベント列車・ラッピング列車」の順となっており、全体の8割以上の事業者がこれらの施策を実施しています。

施策区分	施策項目	事業者数	割合
魅力的な企画切符・商品の展開	企画切符	90	98.9%
	イベント列車・ラッピング列車	77	84.6%
	旅行企画	11	12.1%
駅及び駅周辺の活用	駅でのイベント開催	85	93.4%
	物産・グッズ・キャラクター等販売	68	74.7%
	駅周辺でのイベント開催	38	41.8%
	列車内でのイベント開催	3	3.3%
地域住民、団体等による支援	サポート・ボランティア活動	53	58.2%
	ネーミングライツ(駅等の命名権)	5	5.5%
利用環境の整備による利便性の向上	パークアンドライド	44	48.4%
	レンタサイクル・レンタカー	42	46.2%
	サイクルトレイン(列車への自転車持ち込み)	27	29.7%
	フィーダーバス(駅接続バス)の強化	27	29.7%
	他鉄道との乗り継ぎ改善	5	5.5%

### (2) アイデア公募

#### 【公募概要】

利用者のニーズを把握するとともに、県民等から新たなアイデアを発掘するため、利活用促進策のアイデアを公募しました。

※募集期間：H25年8月26日～9月30日、応募数：195件

## 【公募結果】

主に他の交通事業者や地域における関係施設または事業者、地域住民、自治体と連携して実施するソフト面の施策では、「企画切符」が最も多く、次いで「イベント列車・ラッピング列車」、「サポート・ボランティア活動」の順となりました。

施策区分	施策項目	事業者数	割合
魅力的な企画切符・商品の展開	企画切符	25	12.8%
	イベント列車・ラッピング列車	15	7.7%
	旅行企画	7	3.6%
駅及び駅周辺の活用	駅でのイベント開催	7	3.6%
	物産・グッズ・キャラクター等販売	9	4.6%
	駅周辺でのイベント開催	8	4.1%
	列車内でのイベント開催	4	2.1%
地域住民、団体等による支援	サポート・ボランティア活動	14	7.2%
	ネーミングライツ(駅等の命名権)	2	1.0%
利用環境の整備による利便性の向上	パークアンドライド	6	3.1%
	レンタサイクル・レンタカー	3	1.5%
	サイクルトレイン(列車への自転車持ち込み)	6	3.1%
	フィーダーバス(駅接続バス)の強化	7	3.6%
	他鉄道との乗り継ぎ改善	4	2.1%
小 計		117	60.0%
応募合計		195	100.0%

### (3) 利活用促進策の検討テーマの設定

全国事例調査及びアイデア公募の結果を踏まえ、他の交通事業者や地域における関係施設または関係事業者、地域住民、自治体と連携して実施するソフト面の施策について、次の4つのテーマを設定して検討しました。

テーマ1 : 魅力的な企画切符・商品の展開

テーマ2 : 駅及び駅周辺の活用

テーマ3 : 地域住民、団体等による支援

テーマ4 : 利用環境の整備による利便性の向上

#### (4) テーマ毎の基本的な考え方と施策検討の視点

4つのテーマ毎に施策検討にあたっての基本的な考え方と、現在の本県並行在来線区間の状況を踏まえた、検討の視点を整理しました。

##### ① 魅力的な企画切符・商品の展開

###### (基本的な考え方)

- ・通勤、通学だけでなく、通院、買物、レジャーなど、それぞれの利用者ニーズに対応した企画を展開することで、日常生活における鉄道の利用を促進する。
- ・多様な施設や事業者と幅広い連携を図り、魅力的な企画を実施することで、観光客や非沿線住民が利用する機会を創出し、新規の需要を取り込む。

###### (利用状況)

- 平日
  - ・日中時間帯（9時～15時）の利用者が少ない。
  - ・高齢者は、通院、買物が主な目的であるが、利用頻度は低い。
  - ・主婦層は、買物が主な目的であるが、利用頻度は低い。
  - ・I R区間の利用者の約8割が他鉄道会社の区間を跨いで利用している。
- 休日
  - ・利用者全体の4割以上が年数回の利用となっている。
  - ・全ての年齢層で買物、観光等を目的とした利用が多くなっており、県内利用者が4割、県外利用者が6割となっている。

###### (他鉄道との接続状況)

- ・金沢駅でJ R北陸本線、あいの風とやま鉄道、北陸鉄道と接続し、津幡駅でJ R七尾線、さらには七尾線を経由してのと鉄道と接続する。

###### (駅周辺の主な施設立地状況)

- ・金沢駅 : 大規模な商業施設、文化施設、観光施設、病院が集積している。
- ・東金沢駅 : 大学や高等学校、大規模な病院が立地している。
- ・森本駅 : 高等学校や特別支援学校が立地している。
- ・津幡駅 : 町役場や高等専門学校が立地している。
- ・倶利伽羅駅 : 目立った施設はないが、駅近郊には寺院等の観光施設が立地している。



###### (施策検討の視点)

- ・通院や買物など日常生活へのサポート
- ・J R西日本、北陸鉄道、のと鉄道及びあいの風とやま鉄道区間を含む広域的な需要への対応
- ・金沢駅近郊に集積する各種施設との連携

## ② 駅及び駅周辺の活用

### (基本的な考え方)

- ・利用者だけでなく地域住民が駅に集まる機会をつくり、I Rいしかわ鉄道に対する親しみを持っていただくとともに、駅を活用した地域の賑わいを創出する。
- ・駅及び駅周辺の活用に当たっては、幅広い年齢層を対象とする取り組みを実施し、将来に向けた利用者層の拡大を図る。

### (駅の現状)

- ・金沢駅は高架下駅、東金沢駅、森本駅は橋上駅（自由通路併設）、津幡駅と倶利伽羅駅は地上駅であり、各駅とも待合空間や利用者の滞留空間は確保されている。
  - ・東金沢駅の東口・西口駅前広場は、いずれも比較的広い歩行スペースが設けられている。
- 駅の管理体制は、東金沢駅、森本駅は業務委託駅、津幡駅は社員配置駅、倶利伽羅駅は無人駅である。

### (全国事例における駅及び駅周辺の活用事例)

- ・駅コンコースで地元農家等が地元産品を販売
- ・駅を起終点としたウォーキングイベントを開催し、沿線の名所等を紹介
- ・駅及び沿線の公共施設等を巡るスタンプラリー



### (施策検討の視点)

- ・沿線の資源を活用した駅舎等での新たなイベントの開催
- ・既存のイベントでの会場等としての駅舎等の活用
- ・沿線情報等の発信基地としての駅舎等の活用



### ③ 地域住民、団体等による支援

#### (基本的な考え方)

地域住民等による支援活動を促進することでマイレール意識の醸成と利活用促進を図る。

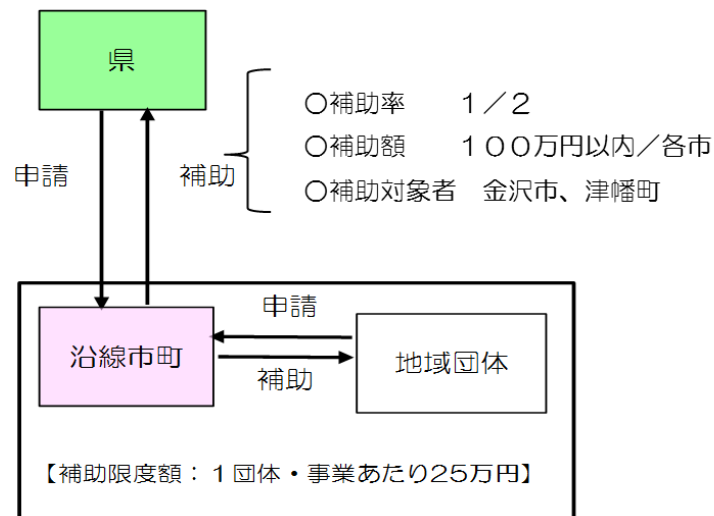
#### (全国事例における支援活動の事例)

- ・ 地元高校や団体が駅舎の美化清掃等のボランティアを実施
- ・ 車両や枕木等のオーナー制度により、施設の維持管理を支援
- ・ 地域団体がサポート団体を設立
- ・ 地元が沿線を紹介するガイドマップを作成・配布
- ・ 駅間にアート作品を展示（車窓アート）

#### (地域活動サポートモデル事業)

- ・ 県と沿線市町が連携して、地域団体による積極的な支援活動の実施に向けた環境を整備する。

#### 【事業スキーム】



#### (施策検討の視点)

- ・ 幅広い年齢層が参加可能な支援の仕組づくり
- ・ 既存のボランティア団体等との協力
- ・ 様々な支援活動のモデル事例の提示

#### ④ 利用環境の整備による利便性の向上

##### (基本的な考え方)

- ・ 駅及び駅周辺における既存の施設・設備などを有効活用し、様々な利用者層が利用しやすい環境を目指す。
- ・ 駅まで又は駅からのアクセスの利便性を向上させることで、地域の観光施設等を含めた利用者圏域の拡大を図る。

##### (駅駐車場の状況)

- ・ 東金沢駅：東口・西口の駅前広場内にそれぞれ送迎用駐車スペースがある。
  - ・ 森本駅：東口駅前広場に隣接し民間有料駐車場がある。
  - ・ 津幡駅：駅前広場内には町営の駐車場、駅前広場に隣接した民間の月極駐車場がある。  
※町営駐車場・駐輪場については、現在、改修が進められており、H26年6月末の完成を予定。
  - ・ 倶利伽羅駅：駅付近に町営の無料駐車場（町民限定）がある。
- ※駐輪場については、各駅とも沿線市町による無料駐輪場が整備されている。

##### (駅接続バスの運行状況)

- ・ 東金沢駅：北鉄バス(上下57本)、西日本JRバス(上下6本)
- ・ 森本駅：北鉄バス(31本)、西日本JRバス(上下80本)、加越能バス(上下4本)
- ・ 津幡駅：北鉄バス(上下21本)、町営バス(上下80本)、福祉バス(上下2本※月・木)
- ・ 倶利伽羅駅：福祉バス(上下2本※火・金)

##### (駅までのアクセス手段の状況)

- ・ 平日：金沢駅は徒歩とバスの利用割合が高いが、東金沢・森本・津幡駅では、徒歩と自転車の割合が高く、倶利伽羅駅では自動車の割合が高い。
- ・ 休日：金沢駅はバスの利用割合が高いが、その他の駅は、徒歩と自転車の割合が高い。

##### (駅からのアクセス手段の状況)

- ・ 平日、休日とも、金沢駅では全券種で徒歩とバスの割合が高いが、その他の駅では通勤・通学定期は徒歩と自転車の割合が高く、定期外は徒歩が最も多く、自動車(送迎)、バス、タクシーの割合も比較的高い。



##### (施策検討の視点)

- ・ 拡充される町営の津幡駅前駐車場の活用
- ・ 東金沢駅、森本駅、津幡駅、倶利伽羅駅での駅接続バスとの乗継円滑化

## 5 開業前から取り組む施策

### (1) I Rいしかわ鉄道が自ら取り組む施策

#### 施策① 広報活動の推進

県民の並行在来線への理解を深めるとともに、I Rいしかわ鉄道の認知度向上を図るため、

- ・HP等を活用した広報活動の展開
  - ・I Rいしかわ鉄道が、自ら地域の行事やイベントに出向き、I Rいしかわ鉄道の周知や利用の呼びかけ
  - ・列車中吊り広告
- を行います。

#### 施策② サポーター制度の導入

沿線住民をはじめとする県民のマイレール意識の醸成とともに、県民の利用を促進するため、

- ・I Rいしかわ鉄道から会員に対する情報等の提供
- ・会員からI Rいしかわ鉄道に対する応援

など、I Rいしかわ鉄道と会員との相互のコミュニケーションを図るサポーター制度を導入し、開業前から会員を募集します。

#### 施策③ 金沢駅お客さまカウンターの設置

利用者の利便性向上と安心の確保、情報発信体制の充実を図るため、開業に先立ち金沢駅コンコースにお客さまカウンターを設置します。

お客さまカウンターでは、定期券や企画切符等の販売をはじめ、運転状況の案内、沿線情報の提供など、丁寧な情報発信を行います。

金沢駅の新しい顔として「おもてなしの場」を創り上げます。

### (2) I Rいしかわ鉄道と関係団体、地域住民等が連携して取り組む施策

#### 施策① パーク&ライドの推進

駅までのアクセスの利便性を向上させることで、鉄道を含む公共交通機関の利用促進を図るため、

- ・町営の津幡駅前駐車場（平成26年中に供用開始予定）での鉄道定期券利用者に対する優先割り当ての実施

など、駅及び駅周辺の駐車場を活用したパーク&ライドの推進に取り組みます。

## **施策② 駅舎等での地産地消市場等の開催**

駅(鉄道)に親しみをもっていただくとともに、沿線地域の活性化を図るため、

- ・ 森本地区の商店街による森本駅での朝採れ野菜等の物産市の開催
- ・ 津幡町商工会やおまん小豆の会、農業団体による津幡駅及び倶利伽羅駅での特産品や朝採れ野菜等の販売(つーバーガーやおまん小豆アイス、まこも等)

など、地域住民や学生、団体等による駅舎や駅前広場における地産地消市場等の開催に取り組みます。

## **施策③ サポートキャラバンの実施**

県民の並行在来線に対する理解を深めるとともに、I Rいしかわ鉄道の認知度向上を図るため、

- ・ J R 県内全駅(37駅)で、駅利用者へのリーフレットの配布
- ・ 県内高校、沿線企業等への訪問

などにより、並行在来線の運営がJ R西日本からI Rいしかわ鉄道に引き継がれることを周知し、利用を呼びかけます。

## **施策④ 駅を活用したイベントの開催**

駅を中心とした地域の賑わいを創出するため、

- ・ 地元大学生等による東金沢駅舎での展示イベント
- ・ 森本地区の商工団体によるまつり等のサテライト会場としての森本駅の活用
- ・ 津幡町健康ウォーク会による津幡駅又は倶利伽羅駅をスタート地点とし、町の観光資源等も活用したウォーキングイベントの開催

など、地域住民や学生、団体等による駅を活用したイベントの開催に取り組みます。

## **施策⑤ 駅舎等の環境美化活動**

地域住民が気軽に参加できるボランティア活動を通じて、I Rいしかわ鉄道に対するマイレール意識を醸成するため、

- ・ 地元大学生等による東金沢駅舎での美化活動
- ・ 津幡町の中条地区老人会等による津幡駅周辺での花プランターの設置
- ・ 津幡町竹橋振興会による竹橋地区内沿線での環境美化活動

など、地域住民や学生、団体等による駅舎や駅前広場の環境美化活動の実施に取り組みます。

## **施策⑥ 駅周辺ガイドマップ作成**

地元商店街をはじめ駅周辺地域の活性化の取組みを、駅（I Rいしかわ鉄道）に対する支援活動につなげていくため、

- ・ 森本駅周辺の女性グループによる森本駅を中心としたエリアマップの作成

など、地域住民や学生、団体等による駅周辺情報を掲載したガイドマップの作成に取り組めます。

## 6 開業時から順次取り組む施策

### (1) I Rいしかわ鉄道が自ら取り組む施策

#### 施策① 他会社線の乗車券等の販売

I Rいしかわ鉄道の各駅でJ R北陸線金沢駅以西やJ R七尾線、のと鉄道、あいの風とやま鉄道及び北陸鉄道の乗車券の販売（連絡運輸）に向けて調整を進めます。

連絡運輸の範囲や実施方法については、J R北陸線やJ R七尾線等の普通列車の利用状況を踏まえ、J R西日本、あいの風とやま鉄道等と協議を進めます。

#### 施策② 利用者の利便性に配慮したダイヤ設定

朝夕の通学や通勤の利便性や、新幹線及び在来線特急列車等との乗り継ぎ利便性などに配慮したダイヤ設定に取り組めます。

運行時間の拡大により、利用者の利便性向上と通勤需要の増加を図るため、金沢駅発の最終列車の出発時刻の繰り下げに努めます。

#### 施策③ イベントに合わせた記念切符

今後増加が見込まれる観光客の二次交通としての需要の取り込みと、J R七尾線やのと鉄道も含めた利用促進を図るため、県内のイベントに合わせた記念切符や割引切符などの販売に取り組めます。

### (2) I Rいしかわ鉄道と関係団体、地域住民等が連携して取り組む施策

#### 施策① 他鉄道とのフリー切符

観光やレジャー、買い物など主に休日の需要の取り込みを図るため、I Rいしかわ鉄道と他鉄道区間で乗り降り自由な割引フリー切符の販売に取り組めます。

I Rいしかわ鉄道とJ R西日本の北陸エリア（北陸おでかけパス）、I Rいしかわ鉄道とJ R七尾線及びのと鉄道の区間（能登ふるさと博フリー切符）の継続販売をJ R西日本に引き続き要請していきます。

また、I Rいしかわ鉄道と北陸鉄道の浅野川線等の区間、I Rいしかわ鉄道とあいの風とやま鉄道の区間での実施に取り組めます。

## **施策② 買物客向け企画商品**

通勤・通学利用の少ない休日の利用増加と、金沢駅周辺の交通渋滞緩和を図るため、I Rいしかわ鉄道、J R西日本、あいの風とやま鉄道及び商業施設等が協力して、鉄道利用と買物などがセットになったお得感のある割引切符の商品化に努めます。

## **施策③ 通院者向け企画切符**

運転に不安のある通院者や高齢者及びその家族の負担軽減と、利用の少ない日中における高齢者層の利用増加を図るとともに、日常生活をサポートすることで地域に貢献するため、鉄道利用と到着駅から医療機関までのアクセスや乗り換えサポートなどがセットになった企画切符の商品化に努めます。

## **施策④ イベントに合わせた臨時列車の運行**

観光やレジャーなどの需要の取り込みと、イベント会場までの二次交通の確保を図るため、モントレージャズフェスティバルイン能登や石崎奉燈祭といった加賀・能登の祭りや地域のイベントに合わせた臨時列車の運行について、地元自治体と共にJ R西日本に要請していきます。

## **施策⑤ ラッピング列車の運行**

県内の各地域やイベントのPRとあわせ、鉄道利用の動機付けにより利用者の増加を図るため、「U F Oのまち羽咋号」、「国宝長谷川等伯号」、「七尾とうはく号」、「和倉温泉わくたま号」といったラッピング列車の運行について、地元自治体と共にJ R西日本に要請していきます。

## **施策⑥ 観光ボランティア等と協力した「I R沿線小さな旅」**

地域住民等のI Rいしかわ鉄道への支援活動の促進と、鉄道を利用した新たな観光需要の掘り起こしを図るため、沿線観光団体等や観光ボランティア等の協力を得て、I Rいしかわ鉄道沿線の歴史、旧跡、名所等を巡る小さな旅の企画に取り組みます。

- (例)
- ・ 倶利伽羅の合戦跡と義仲・巴の愛の足跡を巡る
  - ・ 津幡の里山に育まれた、山菜や竹の子を使用した料理を楽しむ
  - ・ 炭焼き、棚田体験と間伐材を利用した表札、小物づくり体験
  - ・ 地域の古老との対話から昔の生活に思いをはせる

## **施策⑦ 駅舎等を活用した県内各地の観光情報等の提供**

J R北陸線金沢駅以西やJ R七尾線、のと鉄道も含めた沿線の地域情報を発信することで、鉄道を利用した新たな観光需要の掘り起こしを図るため、駅舎や車内における県内各地の観光パンフレット等の設置に取り組みます。

### **施策⑧ 高校生によるイベント、土産品等の企画**

若年層のマイレール意識を醸成することで、将来に向けた利用者層の拡大を図るため、石川県高等学校長会の協力のもと、各種イベントや土産品の企画に高校生が参加する機会の創出に努めます。

### **施策⑨ 駅接続バスとの乗り継ぎ円滑化**

駅から周辺施設へのアクセスの利便性を向上させることで、利用者圏域の拡大、乗り継ぎ需要と定期外利用者の増加を図るため、I Rいしかわ鉄道と駅接続バス事業者相互で接続便案内の実施に取り組みます。

イベントの会場と駅の間で町営バス等を臨時運行します。



## 7 アクションプランの推進に向けて

アクションプランの推進には、利用促進協議会構成団体がそれぞれの立場でアクションプランの実現に向けて積極的に取り組んでいくことが重要です。このため、それぞれに期待される役割について明確にしておくことが必要です。

### (1) 利用促進協議会の役割

- ・アクションプランで提案された施策の状況把握

各施策の実施主体の取組状況、進捗状況、成果を把握するとともに、実施に当たって課題がある場合は、その対応策について検討します。

- ・アクションプラン拡充の検討

アクションプランで示した施策は、開業前から検討が可能なもので、現時点で関係団体や事業者との連携が期待できるものです。

このため、開業後の I R いしかわ鉄道におけるサービス内容や、利用動向、これら施策の実施状況等を踏まえつつ、施策の追加や連携先の拡大に向け、開業後において、本プランの見直しを実施することとします。

### (2) 協議会構成団体の役割

- ・啓発・広報の推進

アクションプランの策定を含めた協議会での取組み、活動内容等について、以下の手法などを通じて、啓発・広報を実施することとします。

- ① 県・市町の広報冊子やHP、テレビ・ラジオ枠等の広報媒体の活用
- ② 団体の会報等を通じた傘下団体への周知
- ③ 団体が開催する会議、講演会等における説明の場の提供
- ④ 団体の主催行事への鉄道を利用した来場の呼びかけ

- ・アクションプランの展開（施策の実施及び実施に向けた調整）

アクションプランで提案された施策の実施主体として、施策の実現に向けて関係機関と調整を実施することとします。特に、「魅力的な企画切符等の展開」に係る施策の実現に向けては、実施主体となる I R いしかわ鉄道をはじめとした交通事業者が、販売連携のための会議を設置するなどして、綿密な調整を実施することが必要です。

### (3) 地域住民・団体等の役割

地域住民、団体には、自分たちの鉄道であるという「マイレール意識」をもって、積極的に I R いしかわ鉄道を利用していただくとともに、駅舎等でのイベントへの参加・開催、サポーター制度への入会などの取組みに積極的に参加していただけるよう利用促進協議会として取り組んでいきます。

また、企業等には、ノーマイカーデーの取組みなど、積極的に鉄道を利用していただけるよう取り組んでいきます。